

経済省 中華民国 台湾投資通信

Vol. 314
Nov 2025

頼清徳総統が日本の新首相に就任した高市早苗氏を祝福。台湾と日本の協力関係の更なる深化を期待！

頼清徳総統は台湾政府と国民を代表して自民党新総裁に選出された高市早苗氏の第104代首相就任に祝意を示し、新政府の施政がスムーズに進むことを祈念すると共に、台湾と日本の関係深化と、両国の繁栄の促進に期待を寄せました。

外資企業が台湾経済のシリコンフォトニクス分野の成長に注目！グローバル企業11社が投資意向書にサインアップ！

経済省政務次官の江文若氏が司会を務め、10月21日に開催された「2025年台湾投資サミット」では、国内外の企業代表および欧米・日本の商工会議所の理事長や最高経営責任者らが参加し、台湾と外国企業の協力と投資の機会創出を促しました。

台日経済貿易の動向

台湾と日本の二国間における投資概況と事例、双方の技術協力、台日の産業協力など。

最近の台日貿易活動について

2025台日投資カンファレンス・2025年ハイグレード金物金具手工具プロモーション訪日団・2026年東京国際自動車部品EXPO。

最近のトピック

頼清徳総統が高市早苗氏の首相就任を祝い、台湾と日本の協力関係が引き続き深化することに期待を寄せました

日本は今年10月21日に臨時国会を召集し、自民党の新総裁である高市早苗氏が第104代首相に選出されました。それを受け頼清徳総統は、台湾政府と国民を代表し、高市首相へ心からの祝意を表すと共に、高市新政府の施政のスムーズな進展と日本の益々の繁栄を祈念し、日台関係を引き続き深化させ、両国の国民の幸福度向上を共に促進できることに期待を寄せました。台湾と日本の交流は密接で深い友情で結ばれており、長きにわたって重要な相互扶助の関係を築いてきました。コロナ禍の際の相互援助に止まらず、今年発生した花蓮の馬太鞍溪天然ダムの災害時には、日本政府から水位観測設備の寄贈を受けました。また多くの日本人が実際に現地を訪れて災難救助を行うなど、台湾と日本人の間にある“家

族”のような誠実な友情と、国際的なパートナーシップにおける善良な精神が十分に示されました。

将来的に、日本と台湾の双方で経済貿易・科学技術・防災および安全保障などの分野において今後も継続して協力を深め、両国関係が新たな道標へと向かって進み、インド太平洋地域の平和・安定と繁栄を共に維持していくことを望みます。この他、頼清徳総統はこのほど退任した石破茂前首相にも、在任中に国際的な局面において、日台の二国間および多国間の声明を通じて台湾海峡の平和と台湾の国際参加への支持を堅持していく、と表明したことに対しても、深い謝意を表しました。

外資企業が台湾経済のシリコンフォトニクス分野の成長に注目！グローバル企業11社が投資意向書にサインアップ

経済省は今年10月21日に「2025年台湾投資サミット」を開催し、国内外から参加した200名以上の国内外企業の代表と欧米や日本の商工会理事長、CEOらと共に、サミットを盛り上げました。サミットでは経済省政務次官の江文若氏が司会を務めました。アメリカのヒューレット・パッカード、Applied Materials、インテグレート・デバイス・テクノロジー、オランダのNXPセミコンダクター、フランスメーカーのアジア東インダストリアルガス、日本の伊藤忠、日東電工、日立ハイテックなどのグローバル企業の上層管理職の面々が出席され、台湾がシリコンフォトニクスとAI分野において強力な発展パワーと投資の吸引力を有していることを示しています。今年のサミットでは、初となる半導体とヘルスケア産業の代表者による現地交流の機会が設けられ、台湾と

外国企業の提携や投資チャンスの促進を図りました。

今年のサミットでは合計25社のメーカーへのアプローチに成功し、江政務次官は25社のうち11社の代表的なメーカーと投資意向書(LOI)を締結しました。その意向書には、特殊ガラスファイバーのグローバルサプライヤーのリーダー企業、日本の日東紡グループの子会社である福隆ガラスファイバーによる新工場の拡張プロジェクトと生産ラインの増設プロジェクト；有名な焼肉ブランド物語台湾(Monogatari)は、今後五年以内に40店舗をオープンする見込み；台湾で長年にわたり展開を続けてきた台湾蔦屋は、来年宜蘭に初となるローカル生活提案型カルチャーセンターを建設予定；パナソニックは高雄へ

の投資を拡大し、新たな物流サービスセンターの建設を予定、といったプロジェクトを包括しています。

またサミットでは初の試みである半導体とヘルスケアをメインテーマとしたビジネスマッチングを催し、昇佳電子・盟立・長聯科技等の台湾メーカーらが、自社が有するイノベーション

パワーを披露して、多数の外国メーカーとの交流や商談をもたらしました。経済省は今後も引き続き五つの信頼と重点産業への注力を続け、台湾と外国企業の協力を深め、AI時代の新たなビジネスチャンスを共有していくことを明示しました。

台日経済貿易の動向

台湾と日本の二国間における投資概況と事例

台湾と日本の二国間投資について、経済省の投資審議部門の資料によると、2025年9月時点での日本から台湾への累計の投資件数は12,372件、投資額の合計は276億ドルに達しており、日本は台湾にとって第四位の投資元となっています。その主な投資分野は、半導体の重要材料・製造設備および精密機械等といった優位性を保つ産業の他に、近年では電動自動車の部品・バイオテクノロジー・グリーンエネルギーなどの新興分野にまで積極的に展開しています。その点から、台湾のハイテクとイノベーション産業チェーンに対する日本企業の高い信頼と長期的な戦略プランが見て取れます。また同期間において、台湾から日本への累計投資件数は1,118件で、投資額の合計は187億ドルに達しました。投資対象は主として半導体の上流・パッケージテスト・IC設計および主要な化学品と材料サプライチェーン等に集中しており、台湾企業が対日投資を通じて、双方の技術プロセスと供給システムの垂直結合の深化が進行していることを示しています。

日本企業による対台湾への投資の事例については、台湾と日本メーカーの補完性が高いために、近年では日本の主要設備や材料のサプライヤーが、台湾の産業ニーズのフォローを目的として、台湾における生産ライン新設や生産ライン拡張に対する意欲が高まっています。

株式会社商船三井(MITSUI O.S.K. LINES, Ltd.)は、日本の三大海運企業の一つで、主に海運と物流関連の業務に従事しています。近年では海上風力発電・液化天然ガスの輸送およびその他グリーンエネルギーなどのプロジェクトにも積極的に投資しており、2025年7月には商船三井洋上風力株式会社(MOL Offshore Wind Investment Co., Ltd.)へ資金を投じました。またCI Fengmiao Ltd(コペンハーゲンインフラファンド)の株式10%を取得し、Fengmiao(滄妙)風力発電所の第一期建設と運営へ投資を行い、台湾の風力発電プロジェクトの堅実な発展を支え続けています。

日本企業の台湾荏原精密股份有限公司(Ebara Precision Machinery Taiwan Inc.)は台湾で20年以上にわたって事業を展開しており、南部サイエンスパークの重要なパートナー企業です。同社は南部サイエンスパークの第三期に「台南第二工場」の建設を予定しており、2025年10月16日に上棟式を執り行いました。このたびの拡張事業は、台南エリアの投資環境に対する、日本企業の高い信頼感を示すものであり、また台湾と日本が手を携えて「半導体 × AI × ロボット」の新時代を推し進める象徴でもあります。新工場の敷地面積はおよそ1.7haを見込み、ドライ真空ポンプと極端紫外線露光プロセスの総合設備の生産に専従する予定で、計画では2026年の第三Qに完成・稼働し、300を超える雇用創出が見込まれています。

台日技術協力

高性能計算(HPC)と生成AIの急速な発展に伴い、データセンターと半導体チップの放熱需要は増加の一途を辿っています。工研院は2025年10月23日に日本のZYRQ Inc.との戦略的協力により、共同で次世代「液浸型冷却技術」の開発を開始すると発表しました。環境保護・省エネおよび高性能を核心目標と位置づけて、AIチップの高消費電力による冷却ボトルネックのブレイクスルーを目指します。このたび台湾と日本

で協力開発している液浸型冷却技術の初期テストでは、チップ計算能力を99.9%安定してキープできることが確認されており、冷却効果は現行の冷却システムの二倍以上もの向上を呈しています。その上、システム設計は現行冷却システムと比べて簡略化され、導入コストを大幅カットが可能となりました。

台日産業連携

経済省(産業発展部)は台湾国内の5Gと次世代通信産業とグローバルマーケットのつながりの強化を図るために、10月1日に6社の業者を率いて大阪で開催されたアジア最大の工業メッセ「2025日本関西ものづくワールド」(Manufacturing World Osaka 2025)に「5G TEAM TAIWAN」の台湾パビリオンを設置しました。国際レベル基地局の展示や、無線周波数デバイス、コアネットワーク、エンドユーザー等の体系化したソリューションの展示のみならず、AI自動化スケジューリング、管理、運営のイノベーション技術なども紹介。展示会の会期中には、辰

隆科技が日本の富士通の傘下にある子会社1Finityとの技術協力を発表。HTC傘下の智宏ネットは日産自動車(NISSAN)と協力して、クロスオーバー研究開発部門イマーシブ協業車輦デザイン開発アプリケーションを構築しました。アスキーコンピューターの5G専用ネットワークソリューションは、NTT東日本(NTT East)サプライチェーンへ成功裏に参入を果たしました。これらの事例は、台湾が産業技術を十分にサポートし、海外市場を開拓し、そこで根を下ろして成果をあげていることを示しています。

インフォメーションコーナー

2025台日投資カンファレンス

開催日：2025年12月2日(火曜日)午後二時
会場：台北晶華酒店3F宴会場A

イベント内容：当イベントは半導体産業がロボットとAI分野における応用と協力チャンスに焦点を当て、デルタ電子(DELTA)および日月光半導体(ASE)の上級幹部を招き、関連産業技術の新たなトレンド、台湾の発展とビジネスチャンスを共有し、日本企業側へ台湾が有する産業ポテンシャルの理解を促す一助となり、台湾と日本の投資協力をより推進します。

主催：経済省、みずほ銀行
運営：財団法人工業技術研究院

2025年高階五金扣件手工具赴日拓銷団

開催期間：2025年11月9日(日曜日)～11月15日(土曜日)
開催地：福岡、大阪、東京

イベント内容：当イベントは精密ハイグレード金物金具手工具および金型関連の業者を集って福岡、大阪、東京へと赴き、市場開拓を行うものです。イベント会期中は、在外の駐在機関のサポートをあおぎ、日本の関連産業のバイヤー(専門輸入業者、有名商社、主要部品の購買部門の代表者など)を招待して、台湾メーカーとワンオンワンの商談を実施します。双方向での協力とビジネス交流を促進して、日本およびアジアに市場エリアの拡大を図ります。

主催：経済省国際貿易部
運営：中華民國對外貿易發展協會

イベントインフォメーション：<https://events.taiwantrade.com/page/EBS/HardwareMissionJP2025>

2026年東京国際自動車部品EXPO

開催期間：2026年2月12日(木曜日)から2月14日(土曜日)
会場：東京有明国際展示場(東京ビックサイト)

イベント内容：日本国内で唯一の自動車アフターサービス部品に特化した部品専門の展示会です。日本貿易振興機構(JETRO)・日本自動車部品工業会および日本自動車販売協会連合会など二十あまりの組織による共催。2025年には日本、台湾、中国、韓国およびタイなどの国や地域から395社ものメーカーが参加して、17,453名にのぼる自動車・オートバイ部品の専門バイヤー、輸入業者および販売業者が来訪して部品を調達するなど、自動車部品業界における重要なビジネスプラットフォームが構築されました。

主催：経済省国際貿易部
運営：中華民國對外貿易發展協會

イベントインフォメーション：<https://events.taiwantrade.com/IAAE2026->

投資相談窓口

投資台湾事務所

100031 台北市中正区愛国東路82号1F
+886-2-2311-2031

經濟部投資促進司

100031 台北市中正区愛国東路82号3F
+886-2-2389-2111(内線:218)

InvesTaiwan:



<https://investtaiwan.nat.gov.tw/homePage?lang=jpn>